

川越城の七不思議（前編）



市立博物館入り口付近にある、「霧吹き」の井戸

今回と次回の二回に分けて、川越城にまつわる伝説「川越城の七不思議」を紹介します。

①初雁の杉

川越城内の三芳野神社（現在の郭町二丁目）には、みことな杉の木がありました。毎年、北から渡ってきた初雁が、必ずこの杉の木の上を三度回って南に飛び去ったので、川越城のことを「初雁城」と呼びました。

②霧吹きの井戸

城内には霧吹きの井戸と呼ばれる井戸があり、敵が攻めて来ると井戸のふたを開けます。すると、霧がもうもうと吹き出し、城を隠したので、敵は立ち去りました。そこで、川越城のことを「霧隠城」とも呼びました。

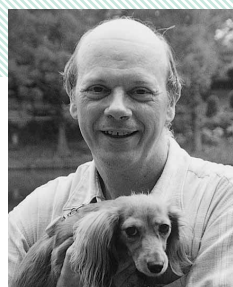
③人身御供

川越城の周囲には沼が多く、太田道真・道灌親子は築城にとっても苦労しました。そんな中、道真の夢に龍神が現れ、「朝一番に、そなたのもとに現れた者を人身御供に差し出せば、成就する」と言いました。そして翌朝、実際に現れたのは道真の娘でした。娘は進んで沼に身を投げ、道真は川越城を完成させることができました。

④片葉の葦

戦に敗れた川越城の姫様が逃れる途中、浮島神社（現在の久保町）近くの七ツ釜と呼ばれた沼地に落ちてしまいました。姫様は、葦の葉にしがみつきましたが、葉はちぎれ、そのまま沈んでしまいました。その後、七ツ釜に茂る葦はすべて片葉となりました。

世界の国から、こんにちは！



フランス／シュバリエ・ミシェルさん

24年前に日本にやってきました。日本に来ていろいろな場所に行きました。特に長距離フェリーの旅が気に入りました。のんびりと旅ができたのでよかったです。日本国内では、四国へはまだ行ったことがないので、いつか行ってみたいと思います。

川越には13年住んでいます。周りの皆さんがとても温かく、私の故郷のノルマンディー丘陵周辺の人たちに似た雰囲気を持っています。住み心地のいいまちで、これからも住み続けたいです。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは15ページ・20ページ、相談は27ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・内線2141

どんぐり

編集後記

先日、子どもが通っている保育園の運動会がありました。1歳になる娘の出番は、かけっこ・ダンス。初めての運動会に、見ている方はハラハラドキドキ……。しかし、当の本人は、ぎこちないながらもとても楽しそう。ほっとするとともに、わが子の成長ぶりに驚きました。秋晴れの1日、家族で思い出に残る時間を過ごせました▶秋といえば、「スポーツの秋」「芸術の秋」「食欲の秋」「読書の秋」……。市民の皆さんは、どのようにお過ごしですか？ 市では、当日参加でも楽しめる「川越市生涯スポーツフェスティバル（11月3日（祝）・川越運動公園）」や「北大路魯山人展（11月3日（祝）～12月16日（日）、市立美術館・市立博物館）」などが開催されます。新たな思い出づくりに、この機会に出かけてみようと思っています。